

国外実態調査報告書

テーマ :
ゼミ名 : 斎藤 正武 ゼミ
調査日 : 2024 年 9 月 10 日 (火) ~ 2024 年 9 月 16 日 (月)
調査先 : 【バンコク】
授業科目名 : 演習 I・II
参加学生数 : 14 名 (3 年生)

調査の趣旨 (目的)

PIM とは商学部が 10 年弱、協定を行っているタイの大学であるが、PIMSattit (PIM の附属中学校) にて、中学生に英語にてプログラミング講習会を行う。内容は、Micro-BIT を利用したブロックプログラミング講習会で、論理的思考力を向上させる授業となる。中大生が、プログラミングを教えながら、日本とタイの文化を知れるような授業を構成する。また、PIM との交流会は、現代流通業の実態というテーマで、日本とタイのコンビニエンスストアの発展や企業戦略など英語で議論を行う。IT ゼミとして、英語を使って、プログラミングを教えたり、コンビニエンスの研究を発表する

調査結果

今年のゼミ活動は、2 つあり、1) P I M 附属中学校でのプログラミング授業、2) P I M 経営学部とのゼミ交流であった。

1) については、実際に、中学 2 年生全クラスを対象にして、2 日間、Micro-bit によるプログラミング教室を行った。生徒一人一人に Micro-bit の端末を渡して、マイクロソフト社が提供する Micro-bit プログラムサイトにおいて、ブロックプログラミングをハンズオンの形式で実施した。中大の学生が英語を使って、資料とスライドで説明しながら、授業を進めて、他の中大生が、生徒の実習のサポートを行う形式で行った。課題は、すごろく作成を行った。プログラム完成後は、グループに分かれて、あらかじめ中大の学生が作ったすごろくゲームを行ない、大変な盛り上がりを見せた。ゼミ生の進行の工夫で、日本の漫画キャラクターの司会でタイの生徒は大変喜んでいた。

2) については、「現代の流通業の実態」ということで、日本にもタイにも多くの店舗があるコンビニエンスストアのサービスや経営戦略をそれぞれが発表した。日本のコンビニエンスストアの特徴や、また、タイのコンビニエンスストアの特徴などがわかり、大変盛会な発表会となった。日本から持参した日本にしか売っていないお菓子が大変タイの学生に受けた。